

# 室町幕府奉行人在職考証稿 (1)

——元弘3年(1333)～康永3年(1344)——

田 中 誠

## はじめに

中世の武家政権には、訴訟実務や法曹を職掌とする「奉行人」と呼ばれる存在がいたことがよく知られている。室町幕府の奉行人について、その出自や性格、氏族構成を初めて明らかにしたのは佐藤進一氏である。佐藤氏は、「白河結城文書」康永3年(1344)3月21日引付番文(『南北朝遺文』東北編706号)および「新田神社文書」72号(貞和5年)引付衆交名注文写(『鹿児島県史料』旧記雑録拾遺家分け10)にみえる幕府引付頭人・評定衆・奉行人の考証を行った。引付頭人は足利一門と根本被官、鎌倉幕府の評定衆層からなり、奉行人の多くも前代以来の伝統的な氏族から任用されていること、直義が評定衆・奉行人に構成される引付方など幕府諸機関を権力基盤としたことを明らかにし、初期室町幕府の権力構造の特質を解明した<sup>1)</sup>。佐藤氏によって、奉行人研究が、室町幕府権力、ひいては中世の武家政権の特質を解明するための重要な要素であることが提起されたといえよう。

佐藤氏以降、南北朝～室町期にかけて幕府職制および奉行人を含む構成員の研究が大きく進展した。評定衆・引付頭人<sup>2)</sup>、政所執事・執事代<sup>3)</sup>、侍所頭人・所司代・奉行人<sup>4)</sup>、禅律方頭人・奉行人<sup>5)</sup>、地方頭人、神宮方頭人・開闔、段銭・過所奉行<sup>6)</sup>、地口銭奉行<sup>7)</sup>、別奉行<sup>8)</sup>などの職制・構成員・成立の背景が検討され、さらに戦国期に至るまでの膨大な奉行人奉書を集成した今谷明氏によって、奉行人奉書の奉者、さらに別奉行が網羅されるに至った<sup>9)</sup>。また近年では南北朝期恩賞方<sup>10)</sup>、政所執事代歴名の復元<sup>11)</sup>といった成果が積み重ねられ、幕府諸機関ごとの奉行人在職・任免が明らかにされている。また一部の個別の氏族についても研究成果が積み重ねられ、各氏族の歴代・本拠地・役職・幕府内での役割・位置づけが明らかにされている<sup>12)</sup>。

鎌倉幕府における幕府の構成員については、佐藤進一氏、細川重男氏が寄合衆・評定衆・引付衆・奉行人について、綿密な考証を行った<sup>13)</sup>。六波羅探題については森幸夫氏<sup>14)</sup>、鎮西探題は川添昭二氏<sup>15)</sup>が評定衆・奉行人の網羅的検出を行い、それらの職制・氏族構成・出自・幕政上の役割が明らかにされている。また室町幕府における関東・東北地方の広域支配機関である鎌倉府についても、湯山学氏が先駆的な研究を進め<sup>16)</sup>、近年植田慎平氏が基氏・氏満・満兼・持氏各代の奉行人について、史料を博捜し、一人一人に分析を加え、人名比定、花押、活動実態を検証し、鎌倉府奉行人の全体像と独自の歴史を提示した<sup>17)</sup>。

このように、鎌倉・室町両幕府の奉行人をはじめとする構成員については、機関ごと・氏族ごとの検討がなされてきた。しかし、これまで室町幕府奉行人については、鎌倉幕府や鎌倉府のように史料学的根拠を明示した在職考証はなされていない<sup>18)</sup>。室町幕府についても、上述したように機関ごとの奉行人活動実態や個別氏族の研究だけでなく、それら集約し、かつ増補して、奉行人個々の人名比定、在職考証を進めることが緊要である。これによって、奉行人氏族の盛衰や職制上の地位の変遷をより明確に追究できるようになると考えられる。また、これまで発表された研究について

も、時が経ちその間新出史料が公表されるなどして修正が必要な点、人物比定に疑義を残している点も少なくない。

従来、室町幕府奉行人がその権力・権限を拡大し政治的影響力を増していくのは、6代将軍足利義教による訴訟制度改革以降とされていた<sup>19)</sup>。しかし、近年では4代義持末期には訴訟制度改革の徴証があり<sup>20)</sup>、3代義満期には引付方の衰退とともに、飯尾・松田・斎藤など奉行人氏族が固定化されていくことが指摘されている<sup>21)</sup>。こうした家の固定と幕府の機構改革は相互に関連していると考えられよう。

このように奉行人は、義満～義教期にかけて、構成する氏族の変化や政治上の地位が向上していったことが提示されている。しかし、従来の研究では義満期の前史となる南北朝内乱期に、奉行人の氏族や職掌がいかなる変遷をたどったのかという点については、十分に検討されているとはいえない。しばしば、室町幕府の奉行人は鎌倉幕府以来のその地位を世襲する伝統的な官僚といわれるが、没落した氏族がみられる一方で、奉公衆に転身した氏族も確認でき、鎌倉幕府から室町幕府に直線的に継承されたわけではないと思われる。内乱期は室町幕府機構の展開とともに、奉行人の人員構成と職掌が大きく変わった時期とみるべきであり、それらを具体的に跡付ける必要がある。これによって室町幕府の成立過程、権力構造など幕府の特質をより明快に解明することが可能となるだろう。

そのためにはまず、南北朝期における奉行人の人物比定・在職考証を行わなければならない。この考証によって、研究の進展している鎌倉幕府・鎌倉府から政治的影響力が増大するとされる6代義教期までの奉行人研究の間隙を埋めることができる。さらに前後の時代を通じた奉行人の人員構成・職掌・権限・地位、その変遷といった中世武家政権における位置づけを考察する基礎を構築することができる。あるいは、守護奉行人の活動とも比較することが可能となろう。

したがって、本稿ではまず佐藤・森両氏が検出を終えた元弘3年(1333)9月の鎌倉幕府滅亡・六波羅探題滅亡以降から、室町幕府が引付方を大幅に改編する康永3年(1344)までの奉行人の在職考証を行う。周知のように、建武政権の雑訴決断所には元鎌倉幕府の奉行人が任用されていたが、その多くが室町幕府にも出仕している。こうした建武政権での動向も、幕府奉行人の前歴として重要である。そこで、後に幕府奉行人として活動が確認できる人物に限って、採録することとした。康永3年(1344)以降については、随時公表していくつもりである。

元弘3年(1333)以降、奉行人の在職を知ることができる史料が格段に増える。そのため、表を用いて奉行人の人名比定・在職の考証を提示し、必要に応じて注釈を施すこととした。本表の作成にあたっては、上述した成果も含め多くの先学の成果を参照させていただいた。表のすべてに註を施すことはできなかったことをお詫び申し上げる。

なお、史料上、守護・評定衆クラスの武士が「奉行」として現れる、あるいは奉書の奉者となる場合があるが、家格や出自の違いからこれらは除外した。また文筆・法曹によって幕政に参加するのは、二階堂氏・長井氏といった評定衆も同様であり、合わせて検討すべきではあるが、ひとまず奉行人のみを対象とし在職考証を進めることとしたい。

なお脱漏・誤謬が多いと存ずるが、読者諸賢の叱正を仰ぐのみである。

## 凡例

- (1) 一年ごとの室町幕府奉行人在職表を挙げる。
- (2) 在職表には、通し番号、月日、比定された人物名、史料表記、在任基準、職掌、史料名、典拠、底本名、備考、註を挙げた。
- ①月日：原則として以下の基準に拠った。文書の場合は、文書発給年次、古記録・編纂史料の場合は、挙げられている日条にかけた。典拠史料中に、それ以前の年月日が明記されている場合は、明記されている年月日を採用した（例えば暦応4年（1341）12月21日足利直義下知状に、同年9月14日に奉行人が使者を務めた記述があった場合、9月14日に奉行人在職とみなしその月日にかけた）。閏月の場合は、丸数字をもってこれを表示した。月日未詳のものは「-.-」（ハイフン）をもって示した。
- 年未詳のものについては、原則として底本の推定に従ったが、一部考証を加えたものがある。
- ②人物名：名字・実名に加え、法名が判明するものは〈 〉をもって補った。実名がわからない場合、史料表記と同様の表記をあて、花押のみがわかるものは「某」をあてた。
- ③史料表記：史料に記載されている文言をそのまま採録した。
- ④基準：後掲（3）を参照
- ⑤所属：幕府諸機関などの役職が判明するものをあてた。先行研究に多くを依拠したが、注を省略した。
- ⑥史料名：古文書などの名称については底本所収の文書名をあてたが、私意をもって改めたものがある。
- ⑦典拠：古文書の場合は、収録されている文書群（足利尊氏下文：東寺百合文書、室町幕府奉行人奉書案：学衆方評定引付など）を記載した。
- ⑧底本名：底本とした刊行史料名を記載した。東京大学史料編纂所等が所蔵する写真版、東寺百合文書WEBなどのWEB上で閲覧可能な史料画像を典拠とした場合も、本欄にその旨を記述した。底本書誌を書ききれない場合は、書誌情報を註に配置した。
- ⑨備考：当該人物の没年、管見の限りの史料上の初見、終見を記述した。略号は、没年：没、初見：初、終見：終とした。
- (3) 在職比定には以下の基準を設け、職掌欄に以下の記号を挙げた。
- A：職掌に基づく発給文書（奉行人奉書、書状）の発給者（便宜、雑訴決断所牒の署判もこれに含めた）
- B：史料中に「奉行人」「為某奉行」と明記されており、奉行である明証を得られる場合。またこうした訴訟などの取次を行っている場合。
- C：裏花押・端裏銘・端裏書・端書・貼紙などから判別できる場合。
- D：ほかに奉行人としての徴証があり、かつ奉行人の職掌として使者を務めていると判断できる場合。
- E：その他在職と推定できる場合。
- F：他の史料から奉行人と確認できる人物が、奉行人の地位・職掌と無関係の史料に表れた場合（例えば所職の充行・譲与・訴訟・官位の授与など）であっても、史料上の初出や生没が判別できる場合など考証に益があると判断した場合。

- (4) 一年の内に、同一人物の複数在職所見がある場合でも、煩をいとわず採録した。  
 (5) 奉行人が、後年評定衆などに昇進した場合でも、継続して採録した。  
 (6) 底本の内、頻出する史料集については、以下の通り、略称を用いた。『大日本史料』は巻数、ページ番号を示す。

大日史 6-1-1	『大日本史料』第六編之一、頁数
大日古 (文書番号)	『大日本古文書』
大日記	『大日本古記録』
纂集	『史料纂集』
中 (文書番号、以下同じ)	『南北朝遺文』中国四国編
九	同 九州編
関	同 関東編
東	同 東北編
法制 (条文番号)	『中世法制史料集』第二卷室町幕府法
集成 (文書番号)	『室町幕府文書集成』奉行人奉書編
百 WEB	東寺百合文書 WEB (刊本がある場合は、刊本を優先した)
八坂記録	『続史料大成 八坂神社記録』1～4
八坂文書 (文書番号)	『増補八坂神社文書』上・下

- ※1 一部史料については、文書名を改める、あるいは写真帳等より判読を改めた箇所がある。  
 ※2 東寺百合文書については、底本に函号だけで号数が載せられていないなど、不備がある場合がある。その際は、京都府立総合資料館編『東寺百合文書目録』の番号を追記した。ただし、東京大学史料編纂所『大日本古文書 家分け東寺文書』を用いた場合は、『大日本古文書』の番号と、『東寺百合文書目録』の番号を併記した。  
 ※3 花押の比定には、『花押かゞみ』5—8を用いた。『花押かゞみ』を引用する場合は、巻頁ではなく、通し番号を付した。  
 ※4 自治体史を引用する際には、巻数をあげ、典拠欄もしくは、底本名欄に文書番号を掲出した。なお、自治体史の体裁によってページ数を掲出したものもある。

No.	月日	人物名	史料表記	基準	所属	史料名	典拠	底本名	備考	註
元弘3年 (1333) 9月										
1	9.3	安威資脩 (性威、性遵)	安威新左衛門尉資脩	E	奥州将軍府	北畠顕家御教書写	白河集古苑所藏白河結城文書	東 7		
2	12.3	疋田妙玄	疋田妙玄	E		将軍家御祈祷御教書目録	祇園社記雑纂第一	八坂記録 4		
3	12.18	飯尾為連 (覚民)	覚民	A	雑訴決断所	雑訴決断所評定文案	勝尾寺文書	箕面市史 551		22
4	12.18	門真寂意	寂意	A	雑訴決断所	雑訴決断所評定文案	勝尾寺文書	箕面市史 551		
5	--	疋田妙玄	ひきたの妙玄	B		宝寿院顕詮申状写	祇園社記続録第三	八坂記録 4		
建武元年 (1334)										
6	2.-	安威資脩 (性威、性遵)	阿井新左衛門尉	B	奥州将軍府	曾我光高申状案	南部光徹氏所藏遠野南部文書	東 52		
7	6.17	飯尾頼連	頼連	B	雑訴決断所 合奉行人	谷山覚心代教信請文案	薩藩旧記	九 63		
8	8.-	飯尾為連 (覚民)	飯尾彦六左衛門入道覚民	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
9	8.-	小田時知	常陸前司時知	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		

10	8.-	布施道乘	布施彦三郎入道道乘	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752	初	
11	8.-	諏方円忠	諏方大進房円忠	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
12	8.-	飯尾貞兼	飯尾左衛門大夫貞兼	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
13	8.-	雅楽信重 (道信)	雅楽左近将監藤原信重	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		23
14	8.-	雑賀西義	雑賀隼人佐入道西阿(義力)	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
15	8.-	津戸道元	津戸出羽権守入道道元	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
16	8.-	門真寂意	門真支蕃左衛門入道寂意	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
17	8.-	後藤行重	対馬民部大夫行重	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752	初	
18	8.-	三須倫篤 (禪休)	三須雅楽倫篤	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
19	8.-	明石行連 (法準)	明石民部大夫行連	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752	初	
20	8.-	飯尾頼連	飯尾兵部右衛門尉頼連	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
21	8.-	疋田妙玄	引田妙玄	F	雑訴決断所	雑訴決断所結番交名	建武記	大日史 6-1-752		
22	9.29	飯尾貞兼	三善朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	反町英作氏所蔵三浦和田文書	関 153 花押かゝみ 3071		
23	9.29	飯尾頼連力	右衛門権少尉三善朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	豊後野上文書	九 128		
24	10.16	小田時知	前常陸介藤原朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	豊後詫摩文書	九 143		
25	11.18	小田時知	前常陸介藤原朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	相模円覚寺文書	関 165		
建武2年 (1335)										
26	1.8	小田時知	常陸前司	E		日静書状	上総藻原寺所蔵金剛集第六卷裏書	関 194		
27	2.24	諏方円忠	円忠	E	雑訴決断所	諏訪円忠書状	小槻匡遠記紙背文書	林讓論文		24
28	3.12	小田時知	和泉守藤原朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	伊豆三島大社文書	関 210 花押かゝみ 3361		
29	3.29	飯尾貞兼	三善朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	斎藤実寿氏所蔵黒川文書	関 220 花押かゝみ 3071		
30	4.3	雑賀貞尚 (貞阿)	中務丞三善	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	大友文書	九 239 花押かゝみ 3277		25
31	4.-	斎藤基連	斎藤九郎兵衛尉基連	B		尼蓮一申状案写	賜蘆文庫文書九所収称名寺文庫	関 232		没
32	4.-	安威左衛門尉	安威左衛門尉	B		尼蓮一申状案写	賜蘆文庫文書九所収称名寺文庫	関 232		初
33	6.1	飯尾為連 (覚民)	覚民	A	雑訴決断所	雑訴決断所評定文案	東寺百合文書め 25-4	大日史 6-2-434		
34	8.27	後藤行重	対馬民部	B		鶴岡八幡宮寺社務職次第	鶴岡八幡宮寺社務職次第	大日史 6-2-569		
35	9.12	飯尾為連 (覚民)	覚民	A	雑訴決断所	雑訴決断所評定文	田中文書	大日史 6-2-609		
36	9.12	関道日	道日	A	雑訴決断所	雑訴決断所評定文	田中文書	大日史 6-2-609	初	
37	9.29	雑賀貞尚 (貞阿)	民部少丞三善朝臣	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	大徳寺文書	関 297 花押かゝみ 3277		
38	⑩.4	飯尾貞兼	大蔵少善三善	A	雑訴決断所	雑訴決断所牒	反町英作氏所蔵色部文書	関 318 花押かゝみ		
39	11.15	門真寂意	門真左衛門入道	B	雑訴決断所	結城宗広新恩所領注文写	楓軒文書纂九十所収白河証古文書	関 301		
40	11.15	飯尾宏昭	飯尾修理進入道	B	雑訴決断所	結城宗広新恩所領注文写	楓軒文書纂九十所収白河証古文書	関 301	初	
41	11.15	雑賀西義	雑賀隼人入道	B	雑訴決断所	結城宗広新恩所領注文写	楓軒文書纂九十所収白河証古文書	関 301		

建武3年(1336)										
42	1.30	明石縫殿大夫	明石縫殿大夫	B		吉見円忠注進状 (康永3.5.28)	進藤文書	大日史6-2-852	初	
43	2.18	後藤行重	後藤対馬守行重	D		浄土寺住持空教房心源申状(暦応1.9)	備後浄土寺文書	中802		
44	2.18	安富貞嗣	安富民部太夫貞嗣	D		浄土寺住持空教房心源申状(暦応1.9)	備後浄土寺文書	中802	初	
45	2.25	飯尾吉連	飯尾隼人佑吉連	F		飯尾吉連等着到状写	碩田叢史所収野溝文書	中258	初	
46	2.25	飯尾為重 (円耀)	舎弟四郎為重	F		飯尾吉連等着到状写	碩田叢史所収野溝文書	中258	初	26
47	3.2	島津忠氏 (観翁)	島津豊後守実忠	B	侍所	山田忠能軍忠状 (建武4年)	薩藩旧記	九1111	初	27
48	3.2	斎藤利泰	斎藤弥四郎利泰	B	侍所	山田忠能軍忠状 (建武4年)	薩藩旧記	九1111	初	
49	3.17	和泉兼政	兼政	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	大隅有馬文書	九484	初	
50	3.17	島津忠氏 (観翁)	実忠	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	大隅有馬文書	九484		
51	3.17	和泉兼政	平	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	薩摩二階堂文書	九485		
52	3.17	島津忠氏 (観翁)	前豊後守	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	薩摩二階堂文書	九485		
53	3.26	兵庫允	兵庫允	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	筑前宗像文書	九516	初終	
54	3.26	島津忠氏 (観翁)	前豊後守	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書	筑前宗像文書	九516		
55	3.28	島津忠氏 (観翁)	実忠	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書写	薩藩旧記所収山田文書	九535		
56	3.28	斎藤利泰	利泰	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書写	薩藩旧記所収山田文書	九535		
57	3.28	島津忠氏 (観翁)	実忠	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書写	薩藩旧記所収山田文書	九536		
58	3.28	斎藤利泰	利泰	A	侍所	足利尊氏奉行人連署奉書写	薩藩旧記所収山田文書	九536		
59	5.6	島津忠氏 (観翁)	嶋津豊後守実忠跡	F		後醍醐天皇綸旨	肥後阿蘇家文書	九603		
60	6.-	飯尾吉連	飯尾隼人佑吉連	F		飯尾吉連軍忠状写	阿波国徴古雜抄卷二飯尾家文書	中369		
61	8.18	須賀清秀	左衛門尉清秀	F		須賀清秀寄進状	清水寺文書36花押かゝみ3616	兵庫県史中世2	初	
62	9.27	斎藤季基 (道永)	斎藤五郎兵衛尉	F	新田氏奉行人	周布蓮心申状写	萩藩閩録百廿一之一	中494	初	
63	10.14	安富貞嗣	源民部大夫	C		足利尊氏御教書案	筑後大友文書	九772		28
64	11.7	明石行連 (法準)	明石民部大夫	E		建武式目	建武式目	法制史料		
65	11.7	布施道乘	布施彦三郎入道	E		建武式目	建武式目	法制史料		
66	12.22	大野栄成	大野越前房	C	引付方	引付頭人奉書案	三宝院文書	富山県史史料編2223	初	
建武4年(1337)										
67	2.-	安富行長 (道行)	安富右近大夫	B	引付方	浄土寺雜掌秀忠申状案	勝尾寺文書	箕面市史史料編1599		29
68	3.29	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫宗栄	C	恩賞方	足利尊氏寄進状案	醍醐寺文書458	大日古	初	
69	4.1	治部宗栄 (宗悟)	同前	C	恩賞方	執事高師直施行状案	醍醐寺文書458	大日古		
70	6.13	諏方円忠	諏防大進	D		廿一口方評定引付 (永享10.6.15)	後鑑十七所収	大日史6-4-249		
71	6.17	関道日	関清左衛門入道	B		勝尾寺寺僧等陳状案	勝尾寺文書	箕面市史史料編1600		
72	6.21	山県経持	山県中務丞	B	寺社方	佐々木導誉書状	多賀大社文書	彦根市史史料編中世1129	初終	30

73	12.5	諏方円忠	諏大	C	禪律方	細川和氏奉書案	神奈川県立金沢文庫保管称名寺文書	関 771		
74	-	安富行長 (道行)	安富右近大夫	B	二階堂道存引付方	曾我貞光申状案 (貞和 3.5.-)	南部光徹氏所藏遠野南部文書	東 949		
暦応元年 (1338)										
75	1.29	飯尾為連 (覚民)	飯尾彦六左衛門 門入道	C		高師直施行状案	東寺百合文書み 29-1-3	大日史 6-4-965		
76	1.29	斎藤刑部左衛門 門入道	斎藤刑部左衛門 門入道	C		高師直施行状案	東寺百合文書み 29-1-3	大日史 6-4-965	初	
77	5.4	大野栄成	大野越前	F		足利尊氏御判御教書 案	八坂文書 1728	八坂文書		
78	5.18	雅楽信重 (道信)	雅楽民部大夫	C		畠山国清請文 (建武 4.8.29)	歙喜寺文書 143	和歌山県史中世 史料 1		
79	7.-	薬師寺公義	薬師寺彦次郎	F		吉川経久軍忠状写	吉川家什書	大日史 6-4-718	初	
80	⑦ .2	斎藤利政 (道遵)	斎藤七郎入道 道猷	F	新田氏奉行人	斎藤七郎入道道猷 義貞の夢を占ふ事	太平記第 20 卷	太平記 (岩波文 庫本)	初	31
81	⑦ .2	斎藤季基 (道永)	斎藤五郎兵衛	F	新田氏奉行人	義助朝臣敗軍を集め 城を守る事	太平記第 20 卷	太平記 (岩波文 庫本)		
82	⑦ .2	斎藤利政 (道遵)	同七郎入道道 猷	F	新田氏奉行人	義助朝臣敗軍を集め 城を守る事	太平記第 20 卷	太平記 (岩波文 庫本)		
83	⑦ .29	諏方円忠	諏方大進房円 忠	B	評定	諸国守護人事	追加法 2	法制史料		
84	⑦ .-	斎藤基秀 (玄秀)	斎藤四郎兵衛 入道	F		田代基綱申状	田代文書	高石市史 2 132		32
85	8.5	布施資連 (昌椿)	布施弾正忠	B	吉良満義引付方	室町幕府引付頭人吉 良満義奉書案	豊後土居寛申蒐集 文書	九 1226	初	33
86	8.6	藤原	藤原	A	政所	大友氏泰代宗運送状	大友文書	九 1225 花押 かゝみ 3333	初	
87	8.6	左衛門尉	左衛門尉	A	政所	大友氏泰代宗運送状	大友文書	九 1225	初終	
88	8.6	民部丞	民部丞	A	政所	大友氏泰代宗運送状	大友文書	九 1225	初終	
89	9.-	布施資連 (昌椿)	布施奥太郎資 連	D	侍所	足利直義下知状 (康永 1.8.21)	國學院大学図書館 所蔵久我家文書	関 1358		
90	10.19	安富行長 (道行)	安富右近大夫	D		執事高師直奉書案	春日神社文書	大日史 6-5-101		
91	10.19	和泉兼政	和泉次郎右衛門 尉	D		執事高師直奉書案	春日神社文書	大日史 6-5-101		
92	10.22	鳥津忠氏 (観翁)	鳥津豊後守	F		八幡宮寺炎上之記并 直義參詣之記	田中文書	大日史 6-5-105		
93	10.26	安富行長 (道行)	安富右近大夫	E	引付方	有国差符写	栗田家文書	愛知県史資料編 8 1089 (1)		
94	10.-	式部権少輔師 英	式部権少輔師 英	B	恩賞方	朝山知長言上状	社家記録一裏文書	八坂記録 2	初	
95	11.14	和田浄観	和田浄観	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古	初終	
96	11.14	飯尾貞兼	飯尾左衛門大 夫	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
97	11.14	安富行長 (道行)	安富右近大夫	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
98	11.14	和泉兼政	和泉次郎右衛門 尉	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
99	12.14	後藤行重	後藤対馬守行 重	B	石清水造営奉行	石清水八幡宮御修理 造営之記	石清水文書	大日古		
100	12.14	鳥津忠氏 (観翁)	鳥津豊後前司 忠氏	B	石清水造営奉行	石清水八幡宮御修理 造営之記	石清水文書	大日古		
101	12.14	中沢性忍	中沢入道性忍	B	石清水造営奉行	石清水八幡宮御修理 造営之記 建武回祿 之記	石清水文書	大日古	初	
102	12.14	安富行長 (道行)	安富右近大夫	B	石清水造営奉行	石清水八幡宮御修理 造営之記 建武回祿 之記	石清水文書	大日古		
103	12.14	和泉兼政	和泉次郎右衛門 尉	B	石清水造営奉行	石清水八幡宮御修理 造営之記 建武回祿 之記	石清水文書	大日古		

104	12.15	後藤行重	後藤対馬守行重	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
105	12.15	中沢性忍	中沢性忍	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
106	12.15	大和判官代	大和判官代	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古	初	
107	12.15	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
108	--	河匂次郎三郎 入道	河匂次郎三郎 入道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古	初	
109	--	雑賀西義	雑賀隼人入道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
110	--	大和判官代	大和判官代	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古	終	
111	--	飯尾貞兼	飯尾左衛門大 夫	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
112	--	門真寂意	門真左衛門入 道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
113	--	津戸道元	津戸出羽権守 入道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
114	--	斎藤基秀 (女秀)	斎藤四郎兵衛 入道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
115	--	雅楽助入道	雅楽助入道	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古	初終	
116	--	雑賀貞尚 (貞阿)	雑賀中務丞	B	石清水造営奉行	建武回祿之記	石清水文書	大日古		
117	--	門真寂真	門真彈正忠入 道	B	三番引付方	垂水莊雑掌祐実陳状 案(暦応4.9)	東寺百合文書レ 39-2	吹田市史5 112	初	
118	--	門真寂真	門真彈正忠入 道	B	三番引付方	日下部氏女代良勝重 申状(暦応4.10)	東寺百合文書レ 36	吹田市史5 115		
119	--	後藤行重	後藤対馬守	B		社家記録 (正平7.12.26)	社家記録	八坂記録1		
120	--	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫	E	恩賞方	某書状	金澤文庫所蔵探玄 記第七疎抄類聚中 裏文書	関 911		
121	--	安富行長 (道行)	安富右近大夫	B	二階堂行応引付 方	正統院雑掌申状事書 案(建武5.-)	円覚寺文書	関 917		
暦応2年(1339)										
122	3.4	布施道乘	布施彦三郎入 道々乗	F		室町幕府引付頭人奉 書	広峯神社文書7	兵庫県史中世2	終	
123	3.8	明石行連 (法準)	明石因幡入道	E	庭中方	足利直義下知状写 (貞和3.4.7)	遠山文書3	岐阜県史史料編 古代中世1		
124	6.11	諏方円忠	諏方大進房円 忠	F		高師直施行状	唐津市小笠原記念 館所蔵文書	九 1355		
125	7.-	式部権少輔師 英	式部権少輔師 英	B	清書奉行	師英書状案	森田清太郎氏所蔵 文書	東大史料写真帳		
126	7.13	明石行連 (法準)	行連	B		明石行連書状案	森田清太郎氏所蔵 文書	東大史料写真帳		
127	7.13	山県国兼	山県大炊助国 兼	B	施行奉行	明石行連書状案	森田清太郎氏所蔵 文書	東大史料写真帳	初	
128	8.18	後藤行重	後藤対馬守藤 原行重	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研 究37		
129	8.18	安威資脩 (性威、性遵)	安威新左衛門 入道性意	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研 究37		
130	8.18	諏方円忠	諏方法眼円忠	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研 究37		
131	8.27	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫 宗栄	E	恩賞方	足利直義下知状案	八坂文書	関 996		
132	8.27	大野栄成	栄成	B	二階堂行珍引付 方	足利直義下知状案	八坂文書	関 996		
133	8.27	雑賀貞尚 (貞阿)	雑賀民部丞貞 尚	B	二階堂行珍引付 方	足利直義下知状案	八坂文書	関 996		
134	10.20	雅楽信重 (道信)	雅民	B	禪律方	藤原有範奉書案	神奈川県立金沢文 庫保管称名寺文書	関 1014		
135	10.-	明石行連 (法準)	明石因幡入道	B	引付方	教王護国寺僧綱大法 師等申状案 (暦応2.10.-)	東寺百合文書ヒ 45-4	山城国上桂庄史 料(上)166-4		

136	10.-	諏方円忠	諏方大進房円忠	B	侍所	教王護国寺僧綱大法師等申状案(暦心 2.10.-)	東寺百合文書ヒ 45-4	山城国上桂庄史料(上) 166-4		
137	11.9	明石縫殿大夫	明石縫殿	F		師守記	師守記	纂集	終	
138	11.26	諏方円忠	諏方大進坊円忠	B	合奉行	万茶羅供後醍醐院御百箇日記	東寺文書	大日史 6-5-816		
139	12.17	津戸道元	津戸出羽権守入道々元	B		足利直義下知状	南部晋氏所蔵文書	関 1035		
140	12.17	飯尾頼連	頼連	E	侍所	足利直義下知状	南部晋氏所蔵文書	関 1035	終	
141	12.17	飯尾貞兼	貞兼	E	侍所	足利直義下知状	南部晋氏所蔵文書	関 1035		
142	12.17	大野彦次郎	大野彦次郎	B		將軍家御祈禱御教書目録	祇園社記雜纂第一	八坂記録 4	初	
143	12.17	大野彦次郎	大野彦次郎	B		足利直義下知状案	祇園社記統録第二	八坂記録 4		
暦心 3 年 (1340)										
144	2.-	治部宗栄<宗悟>	治部兵衛大夫	B	恩賞方	曾我貞光申状土代(貞和 3.5)	南部光徹氏所蔵遠野南部文書	東 950		
145	3.22	河内民部大夫	河内民部大夫	E	恩賞方	高師泰書状	明治百年大古書展出品目録	九 1492	初	
146	3.27	某	裏花押	C	高重茂引付方	足利直義下知状	熊谷家文書	熊谷市史資料編 2 熊谷家文書 62	初終	
147	3.27	某	裏花押	C	高重茂引付方	足利直義下知状	熊谷家文書	熊谷市史資料編 2 熊谷家文書 134	初終	
148	3.-	大野栄成	大野越前坊栄成	B		三宝院僧正坊雜掌覚弁申状	三宝院文書	富山県史史料編 2 243		
149	4.18	志水左衛門尉	志水左衛門尉	D		引付頭人上杉朝定奉書案	八坂文書 1731	八坂文書	初	
150	4.18	志水左衛門尉	志水左衛門尉	D		引付頭人撰津親秀奉書	広峯神社文書 9	兵庫県史中世 2		
151	4.21	白井宗明	白井八郎左衛門宗明	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37	初	
152	4.21	諏方円忠	円忠	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
153	4.21	式部権少輔師英	師英	B	清書奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
154	4.23	門真寂意	門真左衛門入道寂意	B	引付方	仲村庄下方雜掌尊舜申状案	筑後大友文書	九 1504		
155	4.23	門真寂意	寂意	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	大友文書	文書集成 1		
156	4.23	長阿	長阿	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	大友文書	文書集成 1	初終	
157	4.27	後藤行重	対州	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
158	4.27	白井宗明	宗明	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
159	4.27	諏方円忠	円忠	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
160	4.-	治部宗栄<宗悟>	治部兵衛大夫	B	恩賞方	高義胤言上状	社家記録一裏文書	八坂記録 2		
161	5.12	治部宗栄<宗悟>	治部兵衛大夫	B	恩賞方	一色道猷注進目録	社家記録一裏文書	八坂記録 2		
162	5.12	雅楽信重<道信>	雅楽民部大夫	B		一色道猷注進目録	社家記録一裏文書	八坂記録 2		
163	5.17	粟飯原慶意	粟飯原左衛門入道慶意	B		足利直義下知状案	田代文書	大日史 6-6-158	初没	
164	5.17	親勝	親勝	B		足利直義下知状案	田代文書	大日史 6-6-158	初終	
165	5.-	松田専阿	松田甲斐権守入道専阿	B	引付方	堀河基俊遺領裁許状(貞和 4.12.7)	東京大学史料編纂所所蔵	中 1689	初	
166	7.13	諏方円忠	円忠	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
167	7.13	後藤行重	対馬守行重	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		

168	7.13	疋田妙玄	疋田妙玄	B	天竜寺造営奉行	天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
169	7.13	粟飯原清胤	粟飯原刑部右衛門尉清胤	B		天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37	初	
170	7.17	松田専阿	松田甲斐権守入道専阿	B	引付方	河上本庄雑掌能有重申状案	東大文学部所蔵長福寺文書	長福寺文書の研究 293		
171	8.2	散位藤原朝臣	散位藤原朝臣	A		室町幕府奉行人連署奉書	熊谷家文書	熊谷市史資料編2 熊谷家文書 64 花押かゞみ 3333		
172	8.2	散位源朝臣	散位源朝臣	A		室町幕府奉行人連署奉書	熊谷家文書	熊谷市史資料編2 熊谷家文書 64	初終	
173	8.7	斎藤基秀 (玄秀)	斎藤四郎兵衛入道玄秀	B		足利直義下知状 (暦応 4.4.23)	長門内藤家文書	中 1065		
174	8.12	諏方円忠	諏方大進房円忠	F		足利尊氏下文案	天龍寺文書 46	天龍寺文書の研究		
175	8.12	諏方円忠	諏方大進房円忠	F		高師直施行状案	天龍寺文書 47	天龍寺文書の研究		
176	8.12	諏方円忠	諏方円忠	F		足利直義下知状案 (暦応 4.10.21)	臨川寺重書案文	関 1280		
177	8.18	安富行長 (道行)	安富右近大夫	F		引付頭人左京大夫奉書	前田家所蔵文書	中 988		
178	8.21	安威資脩 (性威、性遵)	裏花押	C	吉良貞家引付方	足利直義下知状	東寺百合文書射	東寺文書聚英		
179	8.-	安威資脩 (性威、性遵)	安威左衛門入道	B	吉良貞家引付方	三池近房申状案	薩摩島津家文書	九 1574		
180	9.3	諏方円忠	諏方円忠	F		佐々木秀綱請文案	天龍寺文書 48	天龍寺文書の研究		
181	9.11	諏方円忠	裏花押	C		執事高師直奉書	天龍寺文書の研究	林讓論文		34
182	9.26	舜豊	舜豊	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	田代文書	高石市史 2-140	初終	
183	9.26	飯尾貞兼	貞兼	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	田代文書	高石市史 2-140		
184	9.-	雑賀西義	雑賀隼人入道	B	引付方	田代基綱目安案 (観応 2)	田代文書	信濃史料 6		
185	9.-	諏方円忠	諏方大進房	F		田代基綱目安案 (観応 2)	田代文書	信濃史料 6		
186	10.13	島津忠氏 (観翁)	島津豊後守	B		一期所修善根記録		日蓮宗宗学全書 1 上聖部		
187	11.-	雑賀貞尚 (貞阿)	雑賀	B	二階堂行珍引付方	益永宇輔雑掌昌保申状写	豊前益永文書	九 1607		
188	12.5	安富貞嗣	貞嗣	A	恩賞方	貞副書状写	薩藩旧記二十所収伊地知文書	九 1609		
189	12.5	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛太夫入道	A	恩賞方	貞副書状写	薩藩旧記二十所収伊地知文書	九 1609		
暦応 4 年 (1341)										
190	2.6	松田十郎左衛門入道	松田十郎左衛門入道	B		高師冬挙状	山内首藤家文書	中 1042	初終	
191	2.8	下条入道	下条入道	B		年預五師顕寛書状案	東大寺文書大部荘 174	兵庫県史中世 5	初終	
192	3.7	粟飯原清胤	粟飯原刑部左衛門	B	庭中方	一期所修善根記録		日蓮宗宗学全書 1 上聖部		
193	3.10	松田貞頼 (明覚)	松田右近入道明覚	E		松田明覚請文	尊経閣古文書纂	宮津市史別掲 28		35
194	3.18	和田行快	和田四郎入道行悦 (快)	B	引付方	師守記	師守記	纂集		
195	4.21	諏方円忠	円忠	E		足利尊氏寄進状写	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
196	4.21	式部権少輔師英	師英	B		足利尊氏寄進状写	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37	終	
197	4.22	治部宗栄 (宗悟)	宗栄	B	恩賞方	宗栄書状写	薩藩旧記二十一所収伊地知文書	九 1642		
198	4.22	安富貞嗣	安富民部太夫	B	恩賞方	宗栄書状写	薩藩旧記二十一所収伊地知文書	九 1642		

199	4.23	諏方円忠	諏方大進法眼 円忠	C		東宝記	東宝記	大日史 6-6-762		
200	4.28	安威資脩 (性威、性遵)	裏花押	C	吉良貞家引付方	引付頭人吉良貞家奉 書	東寺百合文書せ武 20	百 WEB		
201	4.-	飯尾宏昭	飯尾修理進 入道	B		西椒庄公文海大空申 状案	西福寺文書 6	和歌山県史中世 史料 2		
202	4.-	斎藤基秀 (女秀)	斎藤四郎兵衛 入道玄秀	B		山中道俊申状案	神宮文庫所蔵山中 文書	関 1207		
203	④ .2	安富貞嗣	安富民部大夫	B	恩賞方	執事高師直奉書案	薩藩旧記	大日史 6-6-769		
204	④ .10	大野光尚	大野弥五郎光 尚	D	引付方	足利直義下知状 (暦応 4.9.11)	烏津家文書	九 1705	初	
205	④ .10	安威資脩 (性威、性遵)	性遵	D	引付方	足利直義下知状 (暦応 4.9.11)	烏津家文書	九 1705		
206	④ .23	光顕	光顕	A	政所	室町幕府政所連署奉 書	大友文書	九 1652	初終	
207	④ .23	貞重	貞重	A	政所	室町幕府政所連署奉 書	大友文書	九 1652	初終	
208	5.28	雑賀	雑賀	B		兵庫関銭下行切符	東大寺文書撰津国 兵庫関 142	兵庫県史中世 5	初終	
209	5.28	大野	大野	B		兵庫関銭下行切符	東大寺文書撰津国 兵庫関 142	兵庫県史中世 5	初	
210	6.14	安威資脩 (性威、性遵)	遵性	A	引付方	室町幕府奉行人連署 奉書案	東寺百合文書レ 39-6	文書集成 3		
211	6.14	大野光尚	光尚	A	引付方	室町幕府奉行人連署 奉書案	東寺百合文書レ 39-6	文書集成 3		
212	6.17	大野	大野	E		兵庫関銭下行切符	東大寺文書撰津国 兵庫関 144	兵庫県史中世 5	終	
213	7.5	諏方円忠	円忠	A	天竜寺造堂奉行	諏訪円忠書状	僧侶文書其 2-3	広島大学所蔵猪 熊文書 (1)		
214	7.21	飯尾為連 (覚民)	飯尾左衛門入 覚民	E		久遠寿量院寺務法印 良重目安	北野松梅院文書	東大史料 DB		36
215	7.21	山県国兼	山県大炊助	B		久遠寿量院寺務法印 良重目安	北野松梅院文書	東大史料 DB		
216	7.25	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫	B	恩賞方	牛屎元貞請文	新田神社文書	九 1686		
217	8.21	大野栄成	大越	C	引付方	足利直義下知状	醍醐寺文書 161	大日古		
218	9.14	安威資脩 (性威、性遵)	性遵	D	引付方	足利直義下知状 (暦応 4.12.21)	仁和寺文書	吹田市史 4 224		
219	9.14	大野光尚	光尚	D	引付方	足利直義下知状 (暦応 4.12.21)	仁和寺文書	吹田市史 4 224		
220	10.7	疋田妙玄	疋田妙玄	E		東大寺離散宿老等会 合評議事書	東大寺文書 96	大日古		
221	10.21	依田正義	依田中務大夫 入道正義	E		足利直義下知状	東寺百合文書フ 18	百 WEB	初	
222	10.21	諏方円忠	諏訪大進房円 忠	E		足利直義下知状	東寺百合文書フ 18	百 WEB		
223	10.23	杉原光房	梶原左近将監 光房	F		足利直義下知状	備後浄土寺文書	中 1118	初	
224	10.23	矢野倫連	矢野壱岐藏人 倫連	E		足利直義下知状	備後浄土寺文書	中 1118	初終	
225	10.-	大野栄成	大野越前坊栄 成	B	引付方	東大寺雑掌定尊申状 案	東大寺文書 792-3	大日古		
226	11.21	安威資脩 (性威、性遵)	裏花押	C	引付方	足利直義下知状	東寺百合文書ホ 21	東寺百合文書八		
227	11.27	門真寂真	門真寂真	B	5 番引付方	足利直義下知状	撰津水無瀬宮文書	中 1126		
228	11.-	雑賀貞尚 (貞阿)	雑賀民部大夫	C	引付方	好嶋庄雑掌光智申状	磐城飯野文書	東 590 花押 かゝみ 3277		
229	12.-	安威資脩 (性威、性遵)	安威新左衛門 入道	B	引付方	朝倉重方重申状案 (康永 2.4)	東寺百合文書レ 1-12	吹田市史 5-116		
康永元年 (1342)										
230	2.2	須賀清秀	須賀	E		賢俊僧正日記	賢俊僧正日記	賢俊僧正日記暦 応五年条		37

231	3.27	諏方円忠	円忠	B		天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
232	6.12	後藤行重	後藤対馬守行重	E		師守記	師守記	纂集		
233	6.23	飯尾貞兼	飯尾左衛門大夫貞兼	B	引付方	足利直義御教書案	醍醐寺文書 458-2	大日古		
234	7.4	飯尾宏昭	裏花押	C	引付方	東寺雑掌光信重申状	東寺百合文書さ 13-1	百 WEB		
235	7.17	諏方円忠	諏方大進円忠	B	禪律方	足利直義下知状案	九条家文書 2046-2	図書寮叢刊		
236	7.22	島津忠氏 (観翁)	嶋津豊後守実忠	F		某書状写	肥後阿蘇家文書	九 1814		
237	7.28	栗飯原清胤	山城権守清胤	B		天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
238	8.8	斎藤基秀 (玄秀)	四郎兵衛入道玄秀	B		薩戒記(永享12.4.16)	薩戒記	大日記		
239	8.8	依田時朝 (元信)	左近将監時朝	B		薩戒記(永享12.4.16)	薩戒記	大日記	初	38
240	8.8	諏方円忠	円忠	B		薩戒記(永享12.4.16)	薩戒記	大日記		
241	8.8	斎藤季基 (道永)	五郎左衛門	B		薩戒記(永享12.4.16)	薩戒記	大日記		39
242	8.9	雅楽信重 (道信)	信重	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	宝莊嚴院方評定引付永徳2.1.4	文書集成4(東寺百合文書た22)		
243	8.12	大野栄成	大野越前房	B	引付方	三宝院雑掌覚弁申状案	醍醐寺文書 3607-27	大日古		
244	8.12	白井宗明	白井八郎左衛門尉	B	引付方	三宝院雑掌覚弁申状案	醍醐寺文書 3607-27	大日古		
245	8.21	小田時知	裏花押	C	引付方	足利直義下知状	久我家文書 61	久我家文書		
246	12.2	白井宗明	白井八郎左衛門宗明	B		天竜寺造営記		鹿王院文書の研究 37		
247	12.5	栗飯原清胤	栗飯原山城権守清胤	B		天竜寺造営記		鹿王院文書の研究 37		
248	12.5	後藤行重	対馬守行重	B		天竜寺造営記		鹿王院文書の研究 37		
249	12.5	島津忠氏 (観翁)	津豊後前司	F		天竜寺造営記	天竜寺造営記	鹿王院文書の研究 37		
250	12.13	飯尾宏昭	宏昭	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	宝莊嚴院方評定引付永徳2.1.4	文書集成5(東寺百合文書た22)		
251	12.13	雅楽信重 (道信)	信重	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	宝莊嚴院方評定引付永徳2.1.4	文書集成5(東寺百合文書た22)		
252	12.-	富部親信	裏花押	C		和田茂長女子尼玄法代玄政申状	反町英作氏所蔵三浦和田文書	新潟県史中世2 文書編Ⅱ 1252		
253	--	布施資連 (昌椿)	布施弾正忠資連	B	引付方	南条高光申状案(貞和2.11.-)	大石寺文書 3	兵庫県史中世9		
254	--	飯尾為連 (覚民)	飯尾彦六左衛門入道	B	引付方	久遠寿量院別当職相論次第(観応1)	宝菩提院文書 179 函 54号	岩元「賦、壁書、内訴、端裏銘覚書」		40
255	--	安富貞嗣	安富民部大夫貞嗣	B	恩賞方	清浄光院雑掌成心言上状案(観応1)	宝菩提院文書 179 函 52号	岩元「賦、壁書、内訴、端裏銘覚書」		41
256	--	雑賀西義	雑賀隼人入道西義	B		東大寺宿老等申状等案	東大寺文書 139-1	大日古		
康永2年(1343)										
257	2.-	門真寂意	門真左衛門入道寂意	B	引付方	仲村庄雑掌尊舜申状案	大友文書	九 1898		
258	3.28	青砥泰重	右衛門尉康重	F		青砥康重讓状写	青砥康重家譜 6	『加賀前田家と尊経閣文庫』	初	42
259	4.27	治部宗栄 (宗悟)	治部兵衛大夫入道宗悟	B		東大寺宿老等事書土代	東大寺文書 140	大日古		
260	4.28	安富行長 (道行)	安富右近将監行永(ママ)	B		書写山衆徒等申状写	摺拾集	兵庫県史中世4		

261	5.1	雅楽信重 〈道信〉	信重	D	引付方	足利直義下知状 (康永3.②.21)	東寺百合文書無29	静岡県史中世2-309		
262	5.1	飯尾宏昭	宏昭	D	引付方	足利直義下知状 (康永3.②.21)	東寺百合文書無29	静岡県史中世2-309		
263	5.1	雅楽信重 〈道信〉	信重	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	宝莊嚴院方評定引付永徳2.1.4	文書集成6 (東寺百合合22)		
264	5.1	飯尾宏昭	宏昭	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	宝莊嚴院方評定引付永徳2.1.4	文書集成6 (東寺百合合22)		
265	5.8	河内民部大夫 入道	河内民部大夫 入道	C		感神院所司解文案	社家記録一裏文書16	八坂記録2		
266	5.10	安富行長 〈道行〉	行長	E		安富行長書状	東寺百合文書ホ29-2	中1262		
267	6.-	門真寂意	門真左衛門入 道寂意	B		大番領雜掌祐尊申状案	田代文書	高石市史2-149		
268	7.21	斎藤基能 〈玄観〉	基能	F	志摩守護代	志摩守護仁木義長奉行人連署奉書案写	光明寺文書10	纂集		初
269	7.23	飯尾宏昭	宏昭	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	東寺百合文書レ39-7	文書集成7		
270	7.23	雅楽信重 〈道信〉	信重	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	東寺百合文書レ39-7	文書集成7		
271	8.12	飯尾宏昭	宏昭	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	東寺百合文書ニ14	文書集成8		
272	8.12	雅楽信重 〈道信〉	信重	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	東寺百合文書ニ14	文書集成8		
273	8.22	河内民部大夫 入道	河内民部大夫 入道	B		社家記録	社家記録	八坂記録1		
274	8.24	治部宗栄 〈宗悟〉	治部兵衛大夫 入道宗悟	B		東大寺宿老等集會事書土代	東大寺文書141	大日古		
275	8.28	治部宗栄 〈宗悟〉	治部兵衛大夫 入道宗悟	B		周防国雜掌定尊申詞事書土代 (貞和-.-)	東大寺文書803	大日古		
276	9.4	中沢性忍カ	中澤入道	E		社家記録	社家記録	八坂記録1		
277	9.4	白井宗明	白井八郎左衛 門	E		社家記録	社家記録	八坂記録1		
278	9.8	門真寂真	門真彈正忠入 道殿	E		赤松門心書状	社家記録一裏文書46	八坂記録2		
279	9.18	門真	門真	E		宗秀書状	社家記録一裏文書44	八坂記録2		
280	9.27	雜賀西義	雜賀隼人入道 西義	B	恩賞方	法印房玄申状案	宝菩提院文書179-48	岩元修一 「内奏方」		43
281	9.27	依田時朝 〈元信〉	依田將監	B		法印房玄申状案	宝菩提院文書179-48	岩元修一 「内奏方」		44
282	10.19	諏方円忠	諏方円忠	E	引付方	室町幕府奉行人連署意見状写 (延徳3.6.24)	参考322	法制史料		
283	10.19	門真寂意	寂意	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	二尊院文書	文書集成10		
284	10.19	飯尾宏昭	宏昭	A	引付方	室町幕府奉行人連署奉書案	二尊院文書	文書集成10		
285	10.22	飯尾宏昭	飯尾修理進 入道宏昭	B	引付方	足利直義下知状	神護寺文書	大日史6-7-747		
286	10.22	雅楽信重 〈道信〉	信重	B		足利直義下知状	神護寺文書	大日史6-7-747		
287	11.6	和泉兼政	和泉右衛門尉	C		足利尊氏袖判下文写	青砥康重家譜2	『加賀前田家と尊經閣文庫』		45
288	11.6	青砥泰重	青砥右衛門尉 康重	F		足利尊氏袖判下文写	青砥康重家譜2	『加賀前田家と尊經閣文庫』		
289	12.8	治部宗栄 〈宗悟〉	治部兵衛大夫 入道	E	恩賞方	社家記録	社家記録	八坂記録1		
290	.-	雜賀西義	雜賀隼人入道 西義	B	所付方	吉川経朝庭中申状 (貞和4.4.-)	吉川家文書998	大日古		
康永3年 (1344)										
291	2.4	藤原	藤原	A		室町幕府奉行人連署奉書	薩摩新田神社文書	九1987 花押かゝみ3334		初終

292	2.4	散位藤原朝臣	散位	A		室町幕府奉行人連署奉書	薩摩新田神社文書	九 1987 花押かゝみ 3333	終	
293	3.21	明石行連 (法準)	因幡入道	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		46
294	3.21	雅楽信重 (道信)	雅楽民部大夫	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
295	3.21	門真寂意	門真左衛門入道	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
296	3.21	関道日	関清左衛門入道	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
297	3.21	山県国兼	山県大炊助入道	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	終	
298	3.21	伊地知重秋	伊地知又次郎	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	
299	3.21	雑賀大舍人允	雑賀大舍人允	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初終	
300	3.21	安富孫三郎	安富孫三郎	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
301	3.21	志水左衛門尉	志水左衛門尉	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
302	3.21	下条祐家	下条次郎左衛門尉	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	終	
303	3.21	帯刀中務丞	帯刀中務丞	B	吉良満義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初終	
304	3.21	飯尾貞兼	飯尾左衛門大夫	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
305	3.21	三須倫篤 (禪休)	三須雅楽允	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
306	3.21	斎藤刑部左衛門入道	斎藤刑部左衛門入道	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
307	3.21	飯尾吉連	飯尾隼人佐	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
308	3.21	富部親信	富部周防守	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
309	3.21	白井宗明	白井八郎左衛門尉	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	終	
310	3.21	斎藤利政 (道遵)	斎藤七郎入道	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
311	3.21	安富新三郎	安富新三郎	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	
312	3.21	大野光尚カ	大野孫五郎入道	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
313	3.21	治部左衛門四郎入道	治部左衛門四郎入道	B	吉良貞家引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初終	
314	3.21	栗飯原清胤	栗飯原下総守	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
315	3.21	斎藤利泰	斎藤左衛門尉	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
316	3.21	依田貞行	依田左衛門尉	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	
317	3.21	斎藤主計四郎兵衛尉	斎藤主計四郎兵衛尉	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初終	
318	3.21	佐藤次郎左衛門尉	左藤次郎左衛門尉	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	
319	3.21	斎藤季基 (道永)	斎藤五郎左衛門尉	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		
320	3.21	薬師寺公義	薬師寺彦次郎	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706		47
321	3.21	関宗度カ	関左近大夫	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	
322	3.21	下条十郎左衛門入道	下条十郎左衛門入道	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初終	
323	3.21	松田七郎	松田七郎	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所蔵白河結城文書	東 706	初	

324	3.21	雜賀貞倫	雜賀掃部允	B	石橋和義引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初	
325	3.21	津戸道元	津戸出羽權守入道道元	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
326	3.21	諏方円忠	諏方大進房	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
327	3.21	飯尾宏昭	飯尾修理進入道	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
328	3.21	大野彦次郎入道	大野彦次郎入道	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
329	3.21	布施資連 (昌椿)	布施彈正忠	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
330	3.21	筑前孫九郎	筑前孫九郎	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初終	
331	3.21	飯尾為宗 (信快)	飯尾三郎左衛門尉	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初	
332	3.21	島田越中五郎	島田越中五郎	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初終	
333	3.21	和泉三郎	和泉三郎	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初	
334	3.21	津戸新藏人	津戸新藏人	B	上杉朝定引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初終	
335	3.21	島津忠氏 (觀翁)	島津豊後前司	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
336	3.21	後藤行重	後藤對馬守	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
337	3.21	雜賀西義	雜賀隼人入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
338	3.21	豊前四郎左衛門入道	豊前四郎左衛門入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初	
339	3.21	斎藤基秀 (玄秀)	斎藤四郎兵衛入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
340	3.21	和田行快	和田四郎入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
341	3.21	門真寂真	門真彈正忠入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
342	3.21	杉原光房	梶原左近將監	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
343	3.21	松田貞頼 (明覚)	松田右近入道	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
344	3.21	青砥泰重	青砥左衛門尉	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
345	3.21	佐藤九郎左衛門尉	佐藤九郎左衛門尉	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
346	3.21	中沢又四郎	中沢又四郎	B	高師泰引付方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706	初終	
347	3.21	後藤行重	後藤對馬守	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
348	3.21	諏方円忠	諏方大進房	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
349	3.21	雜賀西義	雜賀隼人入道	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
350	3.21	門真寂意	門真左衛門入道	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
351	3.21	三須倫篤 (禪休)	三須雅樂允	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
352	3.21	杉原光房	杉原左近將監	B	高師直内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
353	3.21	明石行連 (法準)	因幡入道	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
354	3.21	津戸道元	津戸出羽入道	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		
355	3.21	斎藤利泰	斎藤左衛門尉	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白河結城文書	東 706		

356	3.21	齋藤基秀 〈玄秀〉	齋藤四郎兵衛 入道	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
357	3.21	富部親信	富部周防前司	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
358	3.21	飯尾宏昭	飯尾修理進 入道	B	上杉朝定内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
359	3.21	疋田妙玄	疋田妙玄	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
360	3.21	雅楽信重 〈道信〉	雅楽民部大夫	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
361	3.21	飯尾貞兼	飯尾左衛門大 夫	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
362	3.21	豊前四郎左衛 門入道	豊前四郎左衛 門入道	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
363	3.21	関道日	関清左衛門入 道	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
364	3.21	布施資連 〈昌椿〉	布施彈正忠	B	上杉重能内談方	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
365	3.21	飯尾貞兼	飯尾左衛門大 夫貞兼	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
366	3.21	三須倫篤 〈禪休〉	三須雅楽允倫 篤	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
367	3.21	齋藤利泰	齋藤四郎左衛 門尉利泰	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
368	3.21	齋藤季基 〈道永〉	同五郎左衛門 尉	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
369	3.21	依田時朝 〈元信〉	依田左近将監	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		
370	3.21	飯尾頼国 〈道勝〉	飯尾新左衛門 尉	B	侍所	引付番文	白河集古苑所藏白 河結城文書	東 706		初
371	3.27	津戸道元	津出入	C		山名時氏挙状	前田家所藏文書古 蹟文徵三	東大史料写真帳		
372	4.15	疋田妙玄	疋田妙玄	F	評定衆	師守記	師守記	纂集		没
373	4.-	門真寂意	門真左衛門入 道	C	禪律方	園城寺所司等陳状案	九条家文書 29	兵庫県史中世 8		
374	5.17	栗飯原清胤	栗飯原下総守	B	直義新熊野参詣 供奉	師守記	師守記	纂集		
375	5.17	雅楽信重 〈道信〉	雅楽民部大夫	B	直義新熊野参詣 奉行	師守記	師守記	纂集		
376	5.17	三須倫篤 〈禪休〉	三須雅楽允	B	直義新熊野参詣 奉行	師守記	師守記	纂集		
377	5.17	中沢又次郎	中沢又次郎	B	直義新熊野参詣 奉行	師守記	師守記	纂集		初終
378	5.17	雑賀大郎兵衛 入道	雑賀大郎兵衛 入道	B	直義新熊野路次 奉行	師守記	師守記	纂集		初終
379	5.17	和田将監	和田将監	B	直義新熊野路次 奉行	師守記	師守記	纂集		初終
380	5.18	門真寂真	門真彈正忠入 道寂真	B	高師泰引付方	足利直義下知状 (康永 4.4.27)	美作安東家文書	中 1404		
381	5.18	布施資連 〈昌椿〉	資連	B	上杉重能内談方	足利直義下知状 (康永 4.4.27)	美作安東家文書	中 1404		
382	5.27	布施資連 〈昌椿〉	布施彈正	B	御宿所奉行	師守記	師守記	纂集		
383	5.27	飯尾貞兼	飯尾左衛門大 夫貞兼	B	御宿所奉行	師守記	師守記	纂集		
384	5.-	安富行長 〈道行〉	安富右近大夫 行長	B	恩賞方	大中臣実材重申状写	下総香取大宮司家 文書	関 1501		
385	5.-	後藤行重	後藤対馬守	B	恩賞方	大中臣実材重申状写	下総香取大宮司家 文書	関 1501		
386	6.9	諏方円忠	諏方円忠	F		徳叟周佐書状案	山城法観寺文書	関 1503		
387	6.17	諏方円忠	円忠	F		諏方円忠寄進状案	山城法観寺文書	関 1504		
388	6.-	明石行連 〈法準〉	因幡入道	B	上杉朝定内談方	東寺申状案	東寺百合文書 7 45-5	山城国上桂庄史 料(上) 166-5		

389	7.1	小田時知	沙弥	C		田根莊雜掌・地頭代連署和与状	久我家文書 63 号	久我家文書		
390	7.1	富部親信	周防前司	C	上杉朝定内談方	田根莊雜掌・地頭代連署和与状	久我家文書 63 号	久我家文書		
391	7.7	出雲介入道門忍	出雲介入道門忍	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料	初	
392	7.7	安富行長 〈道行〉	安富右近大夫行長	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
393	7.7	依田正義	(依脱) 田中務大夫入道元義	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
394	7.7	飯尾為連 〈覚民〉	飯尾右衛門入道覚民	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
395	7.7	雅楽信重 〈道信〉	雅楽民部大夫信重	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
396	7.7	津戸道元	津戸出羽権守入道道元	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
397	7.7	雜賀西義	雜賀準入道西義	E		足利直義下知状案	『斑鳩寺雜記』大日本仏教全書寺誌叢書	播磨国鶴莊史料		
398	8.6	和田行快	和田四郎入道行悦	E		師守記	師守記	纂集		
399	8.13	中沢性忍	中沢三郎入道	B		曾我貞光申状案(貞和 3.5.-)	南部光徹氏所藏遠野南部文書	東 949		
400	9.8	布施資連 〈昌椿〉	布施彈正忠資連	F		高師直施行状	服部玄三氏所藏文書 1 号	岐阜県史料編古代中世 4		
401	9.24	雅楽信重 〈道信〉	雅楽民部大夫	D	上杉重能内談方	建仁寺雜掌自有請文案(貞和 2.6.29)	八坂文書 2063	八坂文書		
402	9.24	斎藤基秀 〈玄秀〉	斎藤四郎兵衛入道	D	上杉朝定内談方	建仁寺雜掌自有請文案(貞和 2.6.29)	八坂文書 2063	八坂文書		
403	9.25	飯尾貞兼	貞兼	B	守護請文奉行	師守記	師守記	纂集		
404	10.17	布施資連 〈昌椿〉	布施彈正忠資連	F		高師直施行状	秋元興朝氏所藏文書	大日史 6-8-401		
405	10.18	富部親信	裏花押	C	上杉朝定内談方	東寺雜掌光信重申状	東寺百合文書み 29-4-1	百 WEB		
406	10.18	富部親信	戸部周防権守	B	上杉朝定内談方	東寺八幡宮雜掌光信重申状(貞和 1.12)	東寺百合文書み 29-2	百 WEB		
407	10.19	松田貞頼 〈明覚〉	松田左(ママ)近入道覚明	B		法印房玄申状案	宝菩提院文書 179-48	岩元修一「内奏方」	終	48
408	10.19	雜賀西義	西義	B	恩賞方	法印房玄申状案	宝菩提院文書 179-48	岩元修一「内奏方」		49
409	11.17	飯尾為連 〈覚民〉	飯尾左衛門入道覚民	B	上杉朝定内談方	足利直義下知状	山城島田文書	九 2069		
410	12.9	明石行連 〈法準〉	明石因幡入道法準	C		上桂庄相論文書案(貞和 4.7.25)	東寺百合文書ヒ 4 6	山城国上桂庄史料(上) 163		
411	12.27	伊地知重秋	伊地知又次郎重秋	B	吉良満義引付方	足利直義下知状	醍醐寺文書 3320	大日古	終	
412	12.27	関道日	道日	B	上杉重能内談方	足利直義下知状	醍醐寺文書 3320	大日古	終	
413	12.29	梶原景広	河内守平景広	F		園太曆	園太曆	纂集	初	
414	--	雅楽信重 〈道信〉	□楽民部大夫	B	上杉重能内談方	感神院所司等申状案	八坂文書 1333	八坂文書		

## 註

- 1) 佐藤進一「室町幕府開創期の官制体系」(『日本中世史論集』岩波書店、1990年、初出1960年)。
- 2) 評定衆、引付頭人については、佐藤進一「室町幕府開創期の官制体系」(前掲註1著書)、小川信『足利一門守護発展史の研究』(吉川弘文館、1980年)、岩元修一「評定・引付(内談)方」(『初期室町幕府訴訟制度の研究』吉川弘文館、2007年、初出1990年および2006年)によって、人名比定、在職考証がなされている。
- 3) 桑山浩然「中期室町幕府における政所の構成と機能」(『室町幕府の政治と経済』吉川弘文館、2006年、初出1967年)。
- 4) 羽下徳彦「室町幕府侍所考 その一初期の構成」(『論集室町政権』有精堂、1975年、初出1964年)、今谷明「増訂室町幕府侍所頭人並山城守護付所司代・守護代・郡代補任沿革考証稿」(『守護領国支配機構の研究』法政大学出版局、1986年、初出1975年)。
- 5) 岩元修一「室町幕府禅律方について」(川添昭二先生還暦記念会『日本中世史論攷』文研出版、1987年)。
- 6) 小林保夫「地方頭人考」(『史林』58(5)、1975年)、同「南北朝・室町期の過所発給について—室町幕府職制史の基礎的考察」(『日本古文書学論集8』中世4、吉川弘文館、1987年、初出1975年)、同「室町幕府における段銭制度の確立」(『日本史研究』167号、1976年)。
- 7) 馬田綾子「洛中の土地支配と地口銭」(『史林』60(4)、1977年)、高橋慎一郎「洛中地口銭と室町幕府」(『中世の都市と武士』吉川弘文館、1996年)。
- 8) 青山由樹「室町幕府「別奉行」についての基礎的考察」(『日本古文書学論集』8中世4、吉川弘文館、初出1979年)、同「室町幕府の「別奉行」について」(『東洋大学大学院紀要』第17集文学研究科、1981年)、家永遵嗣「「別奉行」制の源流と引付方」(『室町幕府將軍権力の研究』東京大学日本史学研究室、1992年)。
- 9) 今谷明「室町幕府奉行人奉書の基礎的考察」(『室町幕府解体過程の研究』岩波書店、1985年、初出1982年)。
- 10) 拙稿「初期室町幕府における恩賞方—「恩賞方奉行人」の考察を中心に—」(『古文書研究』72号、2011年)。
- 11) 設楽薫「室町幕府政所執事代の歴名について(其一)」(『室町時代研究』No.3、2011年)。
- 12) 室町幕府奉行人の氏族・個人に関する主な研究をあげる。安威氏：森幸夫「奉行人安威資脩伝」(『中世武家官僚と奉行人』同成社、2016年、初出2014年)、明石氏：同「奉行人明石氏の軌跡」(同書、初出2013年)、飯尾氏：山家浩樹「奉行人飯尾清藤」(『日本歴史』675号、2004年)、森幸夫「室町幕府奉行人飯尾為種考」(『中世武家官僚と奉行人』、初出2013年)、「飯尾宅御成記」にみる奉行人家の様相(同書)、斎藤氏：同「六波羅奉行人斎藤氏の諸活動」(『六波羅探題の研究』続群書類従完成会、2005年)同「南北朝動乱期の奉行人斎藤氏」(『中世武家官僚と奉行人』、初出2011年)、諏方氏：村石正行「室町幕府奉行人諏訪氏の基礎的考察」(『長野県立歴史館研究紀要』11号、2005年)、なお諏方円忠個人および諏方大明神画詞、鷹書に関する研究は割愛した。杉原氏：木下和司「備後杉原氏と南北朝の動乱」(『芸備地方史研究』242号、2004年)、津戸氏：山野龍太郎「東国武士の浄土宗受容と政治的發展：武蔵国の津戸氏を中心として」(『鎌倉遺文研究』31号、2013年)、中沢氏：雉岡恵一「東国御家人中沢氏の西遷と大山荘地頭御家人中沢氏—鎌倉・室町時代初期における政治史的的分析—」(『中央史学』13号、1990年)、真下氏：同「西遷御家人真下氏の室町幕府近習・奉公衆への編成過程」(『埼玉地方史』37号、1997年)、松田氏：榎原雅治「新出「丹後松田系図」および松田氏の検討」(『東京大学史料編纂所研究紀要』4号、1994年)、設楽薫「室町幕府奉行人松田丹後守流の世系と家伝史料—「松田長秀記」の成立について」(『室町時代研究』No.2、2008年)、依田氏：亀田俊和「清廉潔白な奉行人—室町幕府奉行人依田時朝に関する一考察—」(『ぶい & ぶい』vol.18、2011年)。
- 13) 佐藤進一「鎌倉幕府職員表」『鎌倉幕府訴訟制度の研究』(岩波書店、1993年)、細川重男『鎌倉政権得宗専制論』(吉川弘文館、2000年)。
- 14) 森幸夫「六波羅探題職員の検出とその職制」(『六波羅探題の研究』続群書類従完成会、2005年、初出1987年)、同「六波羅奉行人の出自に関する考察」(『六波羅探題の研究』続群書類従完成会、2005年、初出2002年)。なお建武政権下の旧鎌倉幕府奉行人については、同「建武政権を支えた旧幕府の武家官僚たち」(日本史史料研究会監修、呉座勇一編『南朝研究の最前線』洋泉社、2016年)を参照。

- 15) 川添昭二「鎮西評定衆及び同引付衆・引付奉行人」(『九州中世史研究』第1輯、1978年)。
- 16) 湯山学『湯山学中世史論集 鎌倉府の研究』(岩田書院、2011年)。
- 17) 植田慎平「鎌倉府奉行人の基礎的研究」(佐藤博信編『関東足利氏と東国社会』岩田書院、2012年)、同「基氏期の奉行人」(黒田基樹編『足利基氏とその時代』戎光祥出版、2013年)、同「氏満期の奉行人」(同編『足利氏満とその時代』戎光祥出版、2014年)、同「満兼期の奉行人」(同編『足利満兼とその時代』戎光祥出版、2015年)、同「持氏期の奉行人」(同編『足利持氏とその時代』戎光祥出版、2016年)。
- 18) 今谷明・高橋康夫編『室町幕府文書集成』奉行人奉書編(思文閣出版、1986年)、『国史大辞典』「奉行」項(五味文彦執筆)、『角川日本史事典 第二版』(角川書店、1974年)、京大日本史辞典編纂委員会編『新編日本史辞典』(東京創元社、1990年)、『岩波日本史辞典』(岩波書店、1999年)には、それぞれ室町幕府奉行人の在職表が付属している。しかし、これらの間で人名比定・年代の相違がみられる。辞典および表という性格上、典拠を示すことができず、考証に難がある。
- 19) 佐藤進一「室町幕府論」(前掲註1佐藤著書、初出1963年)、桑山浩然「室町幕府の権力構造—「奉行人制」をめぐる問題—」(前掲註3著書、初出1976年)、前掲註9今谷論文。
- 20) 松園潤一郎「室町幕府「論人奉行」制の形成」(『日本歴史』726号、2008年)。
- 21) 山田徹「室町幕府所務沙汰とその変質」(『法制史研究』57号、2007年)、同「室町領主社会の形成と武家勢力」(『ヒストリア』223号、2010年)、森幸夫「中世武家官僚の展開過程」(『中世武家官僚と奉行人』同成社、2016年)。
- 22) 飯尾為連の法名は、森幸夫「六波羅探題職員の検出とその職制」(前掲註14、p.147)による。
- 23) 雅楽信重の法名は、「尊経閣古文書纂 神護寺文書」貞和2年(1346)12月17日足利直義下知状(東京大学史料編纂所所蔵写真帳請求記号:6171.36-9)に「雅楽民部大夫入道々信」とあり、これが雅楽民部大夫信重の出家後の法名と推定されるによる。
- 24) 林謙「諏訪大進房円忠とその筆跡—室町幕府奉行人の一軌跡—」(皆川完一編『古代中世史料学研究』下、吉川弘文館、1998年)。
- 25) 雑賀貞尚の法名は、「東寺百合文書」乙号外2-2延文2年(1357)閏7月日西寺別当法印権大僧都深源目安(『大日史』6-21-401)に「雑賀民部大夫入道貞阿」とあるによる。
- 26) 飯尾為重の法名は、設楽薫「室町幕府政所執事代の歴名について(其一)」(前掲註11)によって紹介された「政所頭人御次第」で、「飯尾左近将監入道円耀 俗名為重」とあるによる。
- 27) 島津忠氏については、『大日史』6-16-650以下に没伝が立てられており、関係史料が収められている。「島津正統系図」によれば、初名は実忠で忠氏に改め、官途も豊後守から下野守に改めたという。忠氏は、建武年間から康永3年の引付番文まで豊後守実忠を称している(本表47、335)。前掲註1佐藤論文(p.230、236)によれば、貞和5年(1349)の時点で下野前司、観応元年(1350)には忠氏と改名していることが明らかである。したがって、本稿では忠氏で統一し、法名は「島津正統系図」に拠った。
- 28) 六波羅探題および室町幕府奉行人の安富氏は、源姓を称している(前掲註14森幸夫「六波羅奉行人の出自に関する考察」)。本表44、255の安富民部大夫貞嗣は、通字「嗣」や官途名から六波羅奉行人安富氏の一族と考えられる。したがって、「源民部大夫」は安富貞嗣と推定される。なお、小松茂美『足利尊氏文書の研究』I研究篇(旺文社、1999年、p.141)において、「源民部大夫」を安富行長に比定している。小松氏は、安富行長の官歴を右近衛将監→民部大夫→散位となったとする。その根拠として『園太暦』康永4年(1345)8月12日条に「散位源朝臣行長」が記した夢記をあげ、その見出しに「安富民部大夫行長夢想事」とあること、その後東寺宝物館所蔵木造地藏菩薩立像台座銘に「散位源朝臣行長(花押)」とあることから、行長の官途を民部大夫として、康永4年8月時点で本来は散位であったとした。しかし、本表に示すように①行長は一貫して「右近大夫」を称すること、②幕府奉行人が発給文書を出す際、五位に叙されている時は署判を「散位」とする故実があること(設楽薫「室町幕府奉行人清元定と「斉藤親元日記」の関係をめぐる」『国史学』37号、1989年、p.63、70)、③同時期に「安富民部大夫貞嗣」が確認できることの3点から、安富行長の官途は右近大夫であり、ここで問題にしている「源民部大夫」は同族の貞嗣に比定される。上述『園太暦』康永4年8月12日条の刊本に付された標目が「安富民部大夫行長」となっているのは、民部大夫貞嗣と混同したためであろう。
- 29) 安富行長の法名は、前掲註28小松著書(p.145)が指摘するように、「祇園社記続録第二」延文3年(1358)

- 3月8日足利義詮御判御教書写（『八坂神社記録』4）に「安富右近大夫入道道行」とあるによる。
- 30) 山県中務丞の実名は、『尊卑文脈』第3巻清和源氏多田頼綱流の山県氏の「山縣掃部助 中務丞 経持」に比定される。同系図にみえる叔父「国兼」は、すでに前掲註1佐藤「室町幕府開創期の官制体系」で指摘されているように、山県大炊助国兼（本表127、215、297）に比定される。
- 31) 人名比定は、前掲註12森幸夫「南北朝動乱期の奉行人斎藤氏」による。同論文（p.107）および前掲註1佐藤論文（p.227）によれば、斎藤道猷の法名は「道遵」であり、『太平記』の「道猷」は誤りと考えられるという。本稿でもこれらの指摘に従った。なお、『太平記』については、本稿では西源院本を底本とした兵藤裕己校注『太平記』（三）（岩波文庫、2015年）に依拠した。
- また「斎藤五郎兵衛」=季基という点について。季基の官途は、後掲註39にあげたように左衛門尉と考えられる。しかし、『大日史』（6-4-926）に収載される「参考太平記」等により当該箇所諸本の異動を確認すると、『大日本史料』は当該部分を「五郎兵衛尉季基」に作り、毛利本は「五郎右衛門尉季基」と作る。ひとまずここでは五郎兵衛=季基としておく。なお『尊卑文脈』では、五郎兵衛を名乗る斎藤一族の人物として、「五郎兵衛 行胤」が確認でき、孫基名は室町幕府の奉行人となっている。記して後考を俟つ。
- 32) 斎藤基秀の法名玄秀は、前掲註14森幸夫「六波羅探題職員の検出とその職制」および前掲註12「六波羅奉行人斎藤氏の諸活動」に推定されている。前掲註11設楽論文によって紹介された「政所頭人御次第」で「斎藤四郎兵衛入道玄秀 俗基秀」とみえ、玄秀=基秀に比定してよいと考えられる。
- 33) 布施資連の法名は、「室町幕府追加法」97条応安元年（1368）6月17日寺社本所領事に「布施彈正大夫入道昌椿」とあるによる。この他所見多数。
- 34) 前掲註24林讓論文による。
- 35) 松田貞頼=松田右近入道であることは、前掲註12榎原雅治「新出「丹後松田系図および松田氏の検討」」に指摘がある。本文書の端裏および署判にみえる「松田右近入道明覚」は、名字と官途名から丹後松田系図にみえる右近将監貞頼であると考えられるが、若干補足を行っておく。本文書は、日置久季が丹後国友枝保について御家人領として相伝知行しているか実否の調査を受け、それに対し松田明覚が「無相違」旨を返答したものである。本文書は幕府からの「御家人領」であることの当知行実否調査を受けたことに対する請文と判断される。こうした当知行実否は通常近隣の御家人に調査が行われること、前掲榎原論文によれば、「御家人領」安堵申請者である日置氏は松田氏の本拠地である丹後国の御家人であること、「丹後松田系図」にみえる祖父頼盛の法名が覚阿、父頼行が覚恵 叔父頼直が覚浄と、「覚」を通字としているという3点からみて、松田右近入道明覚=松田右近将監貞頼とみてよいと考えられる。
- 36) 本史料は、東京大学史料編纂所蔵北野松梅院文書（請求記号：貴37-1）である。同所蔵史料目録データベースにおいて画像閲覧が可能であり、本文書の解題に全文の翻刻が掲載されており、本稿でもそれに拠った。
- 37) 山家浩樹「本所蔵『賢俊僧正日記』暦応五年条について」（『東京大学史料編纂所研究紀要』9、1999年）。
- 38) 依田時朝の法名は、『花営三代記』応安6年（1373）12月3日条に「依田左近大夫入道元信」、「康暦元年結縁灌頂記」康暦元年（1379）11月30日条（『後鑑』）に「依田左近大夫入道元信」とあるによる。
- 39) この五郎左衛門は斎藤季基と考えられる。迂遠になるが、まず「斎藤五郎左衛門尉」の法名をみていくと、時期が下がるが「祇陀寺文書」文和3年（1354）9月24日斎藤季基巻数返事（『大日史』6-19-161）に「さいとう五郎さへもん入道 沙弥道永」、「学衆方評定引付」同年10月20日条所引斎藤道永書状案（『大日史』6-19-173）に「斎藤五郎左衛門入道 道永」とある。この道永を『尊卑文脈』斎藤氏系図に探すと「彦五郎 左衛門尉 季基 道永」とあり、道永=季基に比定される。
- 40) 「宝菩提院文書」は現在閲覧を許可されていない。やむをえず岩元修一「賦、壁書、内訴、端裏銘覚書」（『宇部工業高等専門学校研究報告』52号、2006年）の紹介に拠る。
- 41) 前掲註40と同様の理由から、岩元同論文の紹介に拠った。「宝菩提院文書」179函52号における安富貞嗣の恩賞方奉行人在職の年次を康永元年としたのは次の通り。そもそもこの訴訟は鎌倉にある久遠寿量院別当職を争ってのもので、康永元年（1342）以前に飯尾為連（覚民）を奉行として引付方に係属した（本表254）。為連が康永元年に引付方奉行人であったのは、前掲註40岩元論文で紹介された「宝菩提院文書」

- 179 函 54 号年未詳久遠寿量院相論次第に「康永元 飯尾彦六左衛門入道被経引付奉行」とあるによる。「宝菩提院文書」179 号 52 号（本表 254）では、「於覚民（為連）者、不参恩賞方之間、閣御引付方訴訟、於恩賞方属貞嗣畢」とあることを合わせて考えると、康永元年の間に、引付方奉行人飯尾為連から恩賞方奉行人安富貞嗣に、本訴訟が移管したと考えられる。よって、安富貞嗣が本年に恩賞方奉行人に在職したとみなした。
- 42) 本史料は、菊池紳一「尊経閣文庫所蔵「青砥康重家譜」について」（『加賀前田家と尊経閣文庫』勉誠出版、2016 年、初出 1999 年）に拠った。以下、本稿で引用する青砥康重家譜はすべて同様である。
- 43) 前掲註 40 と同様の理由から、岩元修一「内奏方」（『初期室町幕府訴訟制度の研究』吉川弘文館、2007 年、初出 1994 年）より引用した。
- 44) 前掲註 41 に同じ。
- 45) 和泉兼政については、すでに前掲註 17 植田慎平「鎌倉府奉行人の基礎的考察」、同「基氏期の奉行人」に詳述されており、貞和年間には鎌倉に下向し鎌倉府奉行人となっている。鎌倉下向以降の動向については、本稿では記載を避けた。植田論文を参照されたい。本史料に見える和泉兼政は、青砥康重宛の足利尊氏袖判下文写にある「和泉右衛門尉手跡」という記載に拠っている。この記載について、本稿では植田「基氏期の奉行人」が指摘するように、下文の執筆担当と解釈し、ひとまず尊氏下文の日時にかけた。
- 46) 「白河集古苑所蔵白河結城文書」康永 3 年 3 月 21 日引付番文（東 706）の人名比定は、前掲註 1 佐藤論文および、拙稿「康永三年における室町幕府引付方改編について」（『立命館文学』624 号、2012 年）を参照のこと。
- 47) 薬師寺公義は、高師直の被官として著名であり、すでに多くの研究があるが、海津一郎「東国観応擾乱と武蔵守護代薬師寺公義」（岡田清一編『河越氏の研究』名著出版、2003 年、初出 1988 年）によれば、本史料の直後の貞和元年（1345）より武蔵守護代として関東に下向している。そのため奉行人としての活動は確認できなくなる。したがって、本稿では本史料以降の薬師寺公義の活動を採録しなかった。
- 48) 前掲註 41 に同じ。
- 49) 前掲註 41 に同じ。

（本学文学部授業担当講師）